



議会 だより



★目次★

令和7年9月議会

決算質疑内容ピックアップ……P2～3

審議された議案と議決結果……P4

補正予算質疑ピックアップ……P5

一般質問9人17問……P6～10

新企画「わがまち・この人」……P11

第215号

令和7年11月5日発行



わがまち・この人

お面作り名人

小丹波在住 平原 進さん（82歳）



<決算特別委員長:森田議員>

<青目立不動尊から望む>

<ふるさと納税で人気のビール>

<冬季オフシーズンの奥多摩駅>

令和6年度分 決算を認定

～決算特別委員会で延べ110問の質疑～

一般会計・特別会計・企業会計の決算認定議案が町より提出され、決算特別委員会での審査後、本会議においてすべての会計を認定しました。

質疑をPick UP



町の決算書
はこちらから



歳入

町の特産品を活かす！ふるさと納税寄付金

ふるさと納税寄付金

1,128万円

問 ふるさと納税の寄付額を増やすために、町の特産品を返礼品に加えてはどうか。

答 ふるさと納税寄付額は前年とほぼ同額で1,128万円となった。返礼品は全体の約8割がバテレのビールである。返礼品の受付は町ホームページに加え、大手サイト「ふるさとチョイス」に委託しており寄付額は伸びている。過去には生ワサビを返礼品に加えたが申し込みはなく、シカ肉についても供給量の制約があるなど課題もある。今後は、町の資源を生かした返礼品の開発・拡充に積極的に取り組んでいく。

歳出

町が起業支援する内容について

定住促進サポート事業支援金

問 定住促進サポート事業支援金160万円のうち、起業の内容と実績報告はどうなっているか。

答 60万円は水産養殖業・加工品販売、100万円はメディカルイラストレーター（医療関係イラスト作成）に交付した。実績は翌年度に報告書を提出させ、確認している。

問 起業は町内で行ったのか。

答 補助金の要件であり、町内で起業したものである。

青目立不動尊休み処の現状

文化財保護費

59万3,790円

問 休業状態にあるが、今後の取組は。

答 令和3年3月末に指定管理業者が撤退した。進入路の関係で駐車場が利用出来ない状況であるが、新たに施設の使用を検討する業者もある。奥多摩湖を臨む最高のロケーションであり、観光振興という観点からも一日も早く活用できるように進めていく。



<筋力トレーニング施設>



<放課後居場所づくり事業>



<イノシシ捕獲用の檻>



<火災安全システム>

放課後こども教室の取り組み

学童保育会と放課後こども教室事業費

5,079万円

問 民間委託による放課後居場所づくり事業の1年後の成果と反応、指導員体制について。

答 保護者からは事業に理解をいただいている。子どもについては低学年を中心に多くが参加し楽しんでいるが、高学年の参加率は低い傾向がある。夏祭りイベントを開催し好評であった。スタッフはエリアマネジャー1名、常勤指導員1名、非常勤2~3名の配置。高学年の参加率向上が課題で、業者と検討を重ね改善を図る。町長からも委託業者の更なる努力を求めている。

火災安全システムの設置について

高齢者火災安全システム事業費

問 高齢者火災安全システム事業において、新規設置がゼロとなっているが、独居高齢者には任意ではなく強制的に設置できないか。

答 設置は本人希望に基づくもので、見守り相談員や民生委員の勧奨で行ってきた。最近は火災システムよりも見守りシステムを選ぶ人が多い。強制設置は難しいが、希望者には引き続き勧めていく。

問 高齢者緊急通報システムと火災安全システムは両方設置できるのか。

答 緊急通報システムに火災安全システムを追加でき両方設置している世帯もある。
48世帯のうち35世帯が設置している。

問 両方を同時に申し込むことは可能か。

答 同時申請・設置も可能である。

冬季オフシーズンの宿泊誘致支援事業

観光客誘致宿泊

補助事業委託費

848万円

問 冬場の観光客の宿泊誘致に本補助事業は好評であり、来年度の予算増額の検討はされているか。

答 事業は12月から翌年3月までの冬季オフシーズンに実施されており、宿泊施設の枠は観光協会と宿泊事業者とで協議して設定。割引方法を見直し、1泊2食の場合は商品券を付与するなど工夫している。補助枠が早期に満員となる施設もある。来年度の増額や枠の拡大に向けて、観光協会や宿泊施設と協議を重ねて検討していく。

筋トレ施設を他地区にも

筋力トレーニング施設事業費

問 筋力向上トレーニング施設は人気があり、もう1か所(氷川地区)に設置の予定はあるか。

答 古里の施設は盛況で、氷川でも設置希望の声はあるが、具体的な計画はない。福祉会館のマシンも活用いただいている。財源や場所の課題もあり、今後要望を伺いながら検討していきたい。

シカ・イノシシ捕獲にセンサーカメラ導入

獣害用カメラデータ通信料

・監視システムライセンス使用料

問 どのような内容の事業か。

答 東京都の補助事業を活用し、センサーカメラ10台を購入して獣害対策用の檻に設置している。映像データをクラウド化することで、捕獲の有無をパソコンで確認できるようになり、猟友会の見回り作業の軽減や罠管理の効率化につながっている。

省エネ家電（エアコン・冷蔵庫）購入助成の活用が伸びなかった理由

高齢者世帯等省エネ家電購入費助成金

問 助成事業の執行率が2割程度にとどまった原因は。

答 広報や民生委員会議など様々な機会を通じて周知してきたが、結果的に利用は想定より少ない状況であった。

令和7年9月議会で 審議された議案と議決結果

9月2日から9月12日の会期11日間で、町長提出案件の21件を審議しました。議決結果は下記の表のとおりです。

※議長は採決に加わらないが賛否同数の場合は議長が裁決します。

議長：小峰 陽一 ○=賛成 ×=反対

区分	議案名		議席番号										議決結果
			1	2	3	4	5	6	8	9	10		
			榎戸雄一	伊藤英人	森田紀子	相田恵美子	大澤由香里	澤本幹男	宮野亨	高橋邦男	原島幸次		
条例	第40号	奥多摩町町税賦課徴収条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
	第41号	奥多摩町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
	第42号	奥多摩町高校生等の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
	第43号	奥多摩町子どもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
	第44号	奥多摩町教育委員会教育長の任命の同意を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意	
	第45号	奥多摩町教育委員会委員の任命の同意を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意	
令和7年度補正予算	第46号	令和7年度奥多摩町一般会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
	第47号	令和7年度奥多摩町都民の森管理運営事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
	第48号	令和7年度奥多摩町山のふるさと村管理運営事業特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
	第49号	令和7年度奥多摩町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決	
	第50号	令和7年度奥多摩町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決	
	第51号	令和7年度奥多摩町介護保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
	第52号	令和7年度奥多摩町下水道事業会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	
令和6年度決算	第1号	令和6年度奥多摩町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定	
	第2号	令和6年度奥多摩町都民の森管理運営事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定	
	第3号	令和6年度奥多摩町山のふるさと村管理運営事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定	
	第4号	令和6年度奥多摩町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	×	○	○	○	○	認定	
	第5号	令和6年度奥多摩町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定	
	第6号	令和6年度奥多摩町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定	
	第7号	令和6年度奥多摩町下水道事業会計決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定	
	第8号	令和6年度奥多摩町国民健康保険病院事業会計決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定	
陳情	第2号	「建築物石綿含有建材事前調査・除去費用の国民への周知と国民負担軽減措置を求める国への意見書」提出を求める陳情書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	趣旨採択	

補正予算質疑を Pick UP



新庁舎建設に伴う木材保管場所

立木保管場所等賃借料

問 庁舎建設資材の立木の仮設置場所は。

答 2カ所を借りる予定。1カ所は小河内・川野の道路沿い広場(250~300㎡)、もう1カ所は小菅村の建設業者資材置場(屋根付・約200㎡)。

中学校〇〇祭花火打ち上げ

中学校費教育振興事業費

問 どのような内容なのか。

答 10月26日に中学校〇〇祭というイベントを企画しており、18時から奥中のグラウンドで花火を打ち上げる予定。

サル大規模捕獲

農作物有害鳥獣対策事業費

問 サルの大規模捕獲を実施する内容と場所は。

答 今回は大規模捕獲用の檻を1基購入し、遠隔カメラや冷凍庫も併せて整備する。
今回の設置場所は小河内地区を予定している。地元への説明会を行い、その後、餌づけてサルを誘導し、警戒心が薄れた段階で捕獲を行う計画。
捕獲後は、冷凍庫に一時保管後、大学の研究所に検体として提供する予定。



<町で導入予定の同型のサル大規模捕獲用の檻>

横田基地で国際交流

小学校教育振興費

問 横田基地で行う内容は。

答 古里小・氷川小5・6年生が横田基地メンデル小学校と交流を行う。
昨年度は横田基地の学校から来町し古里小学校で交流したことで、これからも交流したいとの話を頂いた。町独自の交流事業である。

児童・生徒の安全を守る警報装置設置

無線型緊急警報装置設置工事費

問 教室に不審者の侵入等異常事態が発生した場合に使用する装置だと思うが、どのような装置でどのように使うのか。

答 町内小中学校の各教室と職員室を無線で繋ぐ装置である。職員室に本体を設置し、各教室ではペンダント型のリモコンを教員が携帯し、教室で異常事態が発生した際にボタンを押すと、どの教室からの通報かが職員室で分かる仕組みになっている。

長寿ふれあい食堂利用状況は

長寿ふれあい食堂推進事業費

問 1回あたり何名ぐらいの方が来ているのか。

答 鳩ノ巣駅前「さんらく」で今年度は5回開催したが、1回あたり50名~60名前後であった。また、境自治会で1回開催し19名の参加があった。

松枯れを防止、小河内神社周辺で実施

松枯れ予防重点地域対策事業費

問 松枯れ予防重点地域対策事業について実施の効果は。

答 令和6年度は小河内神社周辺で事業費は200万円、実施量100㎡、95本に樹幹注入を実施。前回の令和2年度は97本に実施し、松枯れを防止できた。4年ごとのサイクルで実施しており、電線への倒木防止などの観点からも効果がある。



一般質問登壇9名 町政を問う



さわもと みきお
澤本 幹男議員
(自民党清新会)

問 2 1 大規模災害発生時の初期対応について
国民健康保険・後期高齢者医療保険の
健康診査について

答 1 地域防災計画の通りに行動する
2 人間ドックの助成を検討する

問 1 町には地域防災計画があるが、計画の中で想定している災害はいつ発生するかかわらない。発生した場合は、初期対応が非常に大切である。以下問う。

①大規模災害が発生した時に町職員の参集をどう確保するのか。
②災害の被害状況の把握と情報収集はどうするのか。
③情報を得られない町民への広報はどうするのか。

問 2 町民が健康で長生きをするためには健康寿命を延ばす必要がある。そのため「食育」と「運動」で健康を維持し、「健康診断」で病気の早期発見をすることで健康寿命を延ばすことができる。以下問う。
①現在の「健康診査」の内容に検査項目を追加できるか。
②「人間ドック」を受診する際に助成はできるか。

答 1 ①地震時における職員の参集は、原則として各職員が自ら収集する震度情報等により参集する。

②被害情報があつた場合、基本的には町職員による現地調査班を編成し被害状況の調査を行う。
③各世帯に配置している防災行政無線の個別受信機・町内5か所に設置している屋外スピーカーにより、広報・周知等を行う。

答 2 ①特定健康診査の検査項目は「実施に関する基準」で検査項目が定められており、追加は難しい。
②町民の健康管理を進めていくうえで有効な手段であることから今後、他市町村の状況を把握し、課題等を整理して実施にむけて検討していく。



たかはし くにお
高橋 邦男議員
(山なみ会)

問 永住につながる住環境整備を

答 既存の物件を上手く活用し、永住につながる住環境整備を図る

問 町は子育て支援・若者定住化対策などの支援事業を推進してきた。その結果、人口減少を鈍化させる効果が出ている。ここ数年は、永住につながる子育て応援住宅や分譲地の整備にも力を入れ、また、移住体験住宅の建設など移住希望者の受け皿となる事業も予定されている。

一方、町営若者住宅の入居者には入居期限があり、次の住居を考えなければならぬ。しかし、子育て応援住宅の整備や町所有物件の改修などの数も少なく、分譲地を購入し家を建てることも容易くはない。大澤議員から提案された賃貸住宅の買い取り制度や入居期限の見直しも考える時かもしれない。そこで、問う。

①入居期限のある入居者の住居確保の状況と課題は。
②永住につながる住環境の整備に対する町の考えは。

答 1 退去した55世帯のうち、4割に当たる23世帯は町内転居している。内訳は子育て応援住宅5世帯、町分譲地を購入し住宅を建設2世帯、その他は空き家バンクや個人で物件を探すなどしている。今後、入居期限を迎える世帯が多くなるが、賃貸を基本とし、入居期限については一定の基準や事業全体のバランスを見ながら検討する。

②空き家対策として既存住宅の活用は重要である。町所有の空き家は、都の空き家対策事業等を活用し改修を行い、個人所有の物件は、空き家バンク制度でのマッチング支援を行い、町の移住・定住応援補助金制度を引き続き推進し、住宅の購入につなげたい。また、分譲地事業では、販売やPR方法を検討し、同時に子育て応援住宅のような譲与する形の事業も実施していく必要がある。状況を見ながら事業内容を検討する。

一般質問

えのきど ゆういち
榎戸 雄一 議員
(自民党清新会)



問

1 鳥獣被害対策の担い手「猟友会」への財政支援を

2 災害時避難所としての体育館機能強化について

答

1 要綱の一部改正と財源確保を含め検討する
2 断熱構造でなく、必要に応じ校舎内で対応する

問1 奥多摩町における鳥獣被害は深刻化の一途をたどっている。この問題に対し尽力されているのが奥多摩町猟友会である。その活動を継続する上で、試験射撃にかかる費用が会員の負担となっている。銃の所持許可を毎年更新する際に義務付けられるこの訓練は不可欠なものであるが、その費用が活動継続の負担となる。猟友会員が受講する試験射撃の費用を支援する制度を提案するが、町の見解を問う。

問2 体育館への空調設備設置は、児童・生徒の学習環境改善のため一般質問で取り上げられてきた。近年は異常気象による猛暑が常態化している。体育館は災害時における避難場所としての役割も担っている。快適な避難生活を提供するためにも、体育館への空調設備設置を提案するが町の見解を問う。

への財政支援を強化について

答1 狩猟免許を取得する際の費用を一人あたり上限額を12万円として補助しているが、更新時の教習射撃は補助していない。有害鳥獣捕獲は年間300件を超え、今後サルの大規模捕獲も予定されている。このような状況を踏まえ猟友会の会員確保と経済的負担の軽減を図るため、更新時の費用の一部を補助する当該要綱の一部改正と財源確保を含め検討する。

答2 令和7年3月に改定した町地域防災計画において、町では避難者数を300人と設定。体育館等は広域的避難所である福祉会館、文化会館及び水と緑のふれあい館を補完する予備的な避難所として位置づけている。体育館は断熱構造でなく空調設備の設置だけでは十分な機能を果たせない。必要に応じ校舎内の空調の完備した場所での避難者対応を想定している。

はらしま ゆきつぐ
原島 幸次 議員
(自民党清新会)



問

リチウムイオン電池の分別について

答

わかりやすいごみ名称の検討、分別方法の周知活動や啓発活動などに取組んで行く

問 近年、全国的にごみ処理施設において、家庭ごみの中に混入されたリチウムイオン電池に起因する火災事故が頻発・増加している。リチウムイオン電池には、可燃性の電解液が含まれており、内部が高温になると気化して膨張したり発火したりする恐れがある。以下問う。
① 西秋川衛生組合で発生している火災の件数と主な原因について町の認識と見解は。
② ごみの排出・収集の改善策について、構成市町村間において協議や検討が図られているか。
③ 住民が正しく分別できる効果的な方法について、町の見解は。



答 ① 高尾清掃センターが稼働した平成26年度には小火(ぼや)は2件。過去5年間は令和2年度7件、3年度13件、4年度10件、5年度19件、6年度25件、今年度8月末現在11件発生している。主な原因は、不燃ごみに混入したリチウム電池類が不燃ごみ破砕機で出火したもののがほとんど。町としても、住民生活に欠かせない大切なごみ焼却施設であり、重要な問題と認識している。

② 構成市町村担当課長会や担当者会議などで情報の共有を行い、ごみの正しい分別排出や適切な収集方法を検討している。近年のリチウムイオン電池による出火事故の増加を踏まえ、安全対策や事故防止策も含めて検討していく。
③ 今後は他の構成市町村と共に、わかりやすいごみ名称の検討、分別方法の周知・啓発活動を行い、住民が正しく分別できるよう取り組んでいく。

一般質問

伊藤 英人議員
(どんぐり)



問 1 観光シーズンの おくたま渋滞問題
ヒトもおカネもアイデアも
集まる企業版ふるさと納税

答 1 南岸道路早期開通を働きかける
導入に向けた検討を進めていく

問 1 青梅街道の「古里駅前交差点」「将門交差点」は、観光シーズンの交通渋滞が深刻である。
関係機関との連携や対応について、町の取り組みは。

問 2 過疎化や高齢化などの地域課題をもつ奥多摩町にとって、企業版ふるさと納税は有効な財源確保の手段である。導入に向けた取組は。



※交通が集中する古里駅前交差点と将門交差点。

答 1 両交差点は警視庁の交通管制センターにより、時季・曜日・時間帯の交通量に応じて信号機の設定を変え、青信号の時間を延ばし渋滞緩和のための対応がされている。

答 2 企業版ふるさと納税導入のための国の認定を受けるには、町の地域再生計画の作成とその評価指標の設定が必要。今年度検討を進めている、第6期長期総合計画の評価指標の設定とともに、企業版ふるさと納税導入に向けた検討を進めていく。

相田恵美子議員
(あいだ えみこ)
(ガジユマルの会)



問 石川県穴水町の現状から学ぶ

答 町の特性に合わせた対応を行う

問 ① 議員視察でたずねた穴水町では、震災対応の課題として「受援体制の準備不足」が挙げられているが、本町ではリエゾン(情報連絡要員)等はどういうに受け入れるのか。

② 地域防災計画では「地区防災計画の作成を希望する自主防災組織等への支援を行う」と明記、地区防災計画策定の積極的な支援が必要だと思うが。

③ 災害時における1.5次避難所、みなし避難所について具体的な設定と周知をどのように考えているか。



※能登・穴水町の復興支援せんべい

答 ① 東京都では発災時における区市町村へ情報連絡要員を派遣する制度を構築している。発災時には当該自治体の被害状況の全容を把握、迅速な支援の提供、町の本部会議に同席し必要に応じて都本部に報告している。

② 都が行う地域向け研修への参加や町消防団と連携しての訓練等、必要に応じて地区防災計画への取り組みを進めていく。

③ 能登半島地震に際して2次避難所をスムーズに実施するため、1.5次避難所は石川県が国内で初めての取り組みであった。1.5次避難所やみなし避難所の開設は避難にあたって不都合がある状態、町はスムーズに避難できることが肝要と考え具体的な設置、周知はすべきものではないと認識している。

一般質問

もりた
森田 紀子議員
(宇重会)



問

熊出没における観光ゴミ
誘因の影響と対策について

答

獣害・観光ゴミ対策を推進する

問 猛暑によるエサ不足で熊の出没・被害が増加している。奥多摩町でも住宅地近くで目撃が相次ぎ、河川敷ではBBQゴミが誘因となる恐れがある。川沿いは熊の通り道であり、ゴミの持ち帰りを呼びかける看板設置等だけでは限界があるため早急な対策が必要である。

①熊のエサ不足と観光ゴミの放置という複合的課題に対し、現行の対策の効果と限界、今後の方針について。
②住民の安全と観光客への注意喚起を両立するため、LINE等を活用した情報共有や、多言語での発信強化についての考えは。

答 ①ツキノワグマ出没は観光ゴミではなく、コンポストや空き家の味噌樽などが誘因事例として確認されている。町では昨年捕獲数が10頭を超えた状況を踏まえ、ツキノワグマ対策マニュアルを作成・全戸配布し、

広報やホームページで周知した。観光客向けにはホームページ更新やSNSでゴミ持ち帰りを呼びかけ、夏休み期間には氷川・鳩ノ巣溪谷でマナーアップキャンペーンを実施、駅前でゴミ引き取りを案内するなど啓発を強化した。

②町は「獣害報告LINEアプリ」による通報・お知らせ機能や、防災おくたま放送で住民に周知、猟友会と連携したパトロール・追払い・捕獲で人的被害防止を図っている。

今年8月の釣り客被害時には初めてアプリで通知し、キャンプ場や登山口で注意喚起を実施した。観光客には



クマは現場から逃げ
地元の猟友会がパトロール

ヤフー緊急情報や多言語サイト「ガイドア」で発信し、第6期長期総合計画に基づき資源を大切にすまちづくりとして獣害・観光ゴミ対策を推進する。

みやの
宮野 亨議員
(公明党)



問

1 広島市への小・中学生派遣事業の
創設と平和学習について
2 学校におけるがん教育について

答

2 1 効果的な活用なども学校と研究していく授業を通して適切に指導を行っている

問1 近年、国際社会では対立、紛争、核の脅威など、不安な状況が続いている。これからを担う若者の不戦とともに平和意識の醸成を図る一助として、広島市への学生派遣事業の創設を提案する。

問2 学校におけるがん教育について。

答1 日本の平和教育・学習は教育基本法第一条の「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身共に健康な国民の育成を期して行わなければならない」ことを礎として実施している。町の小学校では、6年生の社会科歴史で、戦争について学習する。また、戦争の悲惨さ残酷さ、平和の尊さ・大切さを適宜指導している。中学校では「歴史分野」で第二次世界大戦やそれ以前の戦争について学び、「公民分野」で日本国憲法の平和主義について深く学

ぶ。意味のある事業とするには、事前準備も必要なことからすぐの実施は難しい状況。移動教室や修学旅行の宿泊を伴う行事があるので、それらの効果的な活用なども学校と研究していく。

答2 学校におけるがん教育は、令和2年度から小学校、令和3年度から中学校で必修化され実施。小学校では6年生が保健学習の一環として医師を招き、がんが他人事ではなく、自分事として捉える学習をしている。毎年、年度当初に教員に対してがん教育を適切に実施し、子供たちが、がんを正しく理解するよう指示している。中学校では3年生が、医師を招き指導を受けている。授業では、がんとは何か、がんの発症率、発症メカニズム、治療法、患者の生き方等、がんについて正確な事を知ることがいかに大切なことであるか、異口同音に感想が上がる。限られた時間の中で、適切に指導を行っている。

一般質問



おおさわ ゆかり
大澤由香里議員
(日本共産党)

問

子ども版「防衛白書」の
小学校配布について

答

冊子が配布された場合でも、子ども向けの教育には使用しない方針である

問 防衛省が、子ども版「防衛白書」を7月時点で全国約2400の小学校に計6100冊配布していたことが分かった。文書は中国やロシアなど特定の国を名指しして脅威をあり、軍事力強化の必要性を説いているほか、意見が分かれる安全保障政策などについて政府の見解を一方的に教え込む内容となっており、配布された自治体や教育現場で懸念や戸惑いが広がっている。

①防衛省から奥多摩町に配布されたか。

②冊子を読んだ教育長の感想、受け止めは。

③冊子の取り扱いはどうにするのか。

答 ①奥多摩町には送付されていない。また、東京都教育委員会へ確認したところ、防衛省からの依頼はなく、都内の区市町村教育委員会から送付についての連絡等も入っていないとのことである。

②送付された学校は困惑し、職員室などで保管を決めるところが多とんどである。感想については、報道等で指摘があるように特定の国を名指しして軍事力強化の必要性を説いているほか、政治的に意見が分かれる安全保障政策などについて抑止力が大切と一面的な捉え方につながる可能性があるものなどが散見され、町には、様々な国々にルーツを持つ子どもたちも在住しており、傷つける必要があると感じている。

③防衛省から東京都教育委員会へ依頼はないので、東京都教育委員会の判断等は示されていないが、現段階では送付があったとしても子どもたちに向けて冊子を使った教育は行わない方針である。

議員研修会

西多摩地区議長会議員研修会 <10月1日>

●西多摩地域の医療連携について

西多摩地域における医療連携の必要性、そしてなぜ連携・情報共有が進んでいないのかという課題提起から有識者を交えパネルディスカッションはスタートしました。連携を推進するためにはいわゆる旗振り役が必要であることが明確になり、三公立病院（福生・阿伎留・青梅）が協議の場を持つことが、その最初の一步になり得ると確認されました。西多摩地域の医療が抱える主な問題点としては、医療機関それぞれの連携不足、医療提供体制の地域格差、そして従事者の高齢化と同時に進行する医療不足などが挙げられます。これらの問題解決のためには医療機関の診療連携が不可欠であり、ICTの活用や地域医療体制の強化が求められます。また、患者と医師会などの民間医療機関、公立病院の間に立ち、中立的な立場で調整



役を担う存在も必要です。まず、日々の診療は診療所などの「かかりつけ医」に受診し、その後、必要に応じて公立病院と連携する体制が望ましいです。患者自身もホームドクターとのコミュニケーションに努めていくことが重要です。連携の必要性は明白であるものの、現実には様々な障壁が存在します。その中で、「顔の見える関係」をどのように構築していくかが、重要な課題の一つであると考えられます。

<記事：相田恵美子>

新企画 わがまち・この人

お面づくり名人 小丹波在住 平原 進さん(作家名:一進さん)

Vol.3 お面と向き合う

奥多摩の夏を彩るお祭り。祭礼で奉納される獅子舞や神楽などのお面をつくる名人、平原進さんに想いをお聴きしました。

Q1. お面づくりのきっかけは

今から25年ほど前、たまたま訪れた能面作家のお面に魅せられたため。

Q2. お面づくりの楽しさは

一番興奮するのは目をくり抜き、木材が「人の顔」になる瞬間。「おい、そろそろ目を開けていいか」と語りかけているそうです。

手間がかかりますが、鉛筆が削れればだれでもできますよ、とも言っておられました。

Q3. 棚沢の獅子頭を製作したそうですが

棚沢の同級生から依頼を受け、約2年かけ製作したそうです。材料は桐でとても軽いのが特徴です。海沢の獅子頭も製作されています。

Q4. 海沢ふれあい農園のお面づくり教室について

海沢在住の牧野信さんが指導していた教室に通っていて、牧野さんから引き継いで指導することになったそうです。冬に開催しています。

Q5. 要望など

ふれあい農園の教室では、桐材の不足が心配なのと、文化会館での「文化芸術展」の会場スペースに生徒さんの作品を展示しきれないのが残念だそうです。



<棚沢の獅子頭>



お面は、ろうソクや自然の光のわずかな加減で表情を変えます。電気のない時代の人々の営みを、奥多摩の祭礼の中に垣間みたような気がしました。

■取材・撮影：高橋邦男・伊藤英人・相田恵美子



次回 12月議会定例会日程（予定）

議会運営委員会 12月 1日（月）
本 会 議 12月 5日（金）・9日（火）・12日（金）
※一般質問は12日（金）

※会議の予定は変更になる場合があります。詳細はお問い合わせください。

※本会議はどなたでも傍聴することができますので希望される方は議会事務局で手続きを行なってください。

問い合わせ先 議会事務局 ☎0428（83）2302（直通）

★ 請願・陳情 ★

12月定例会では、11月7日（金曜日）までに受理したものを審議します。それ以降の受付の場合は、次回定例会で審議することになります。提出する際には、次のことにご注意ください。

① 請願には必ず1人以上の紹介議員が必要です。（陳情は不要です）

② 請願・陳情者は、住所・氏名・電話番号を必ず記載し署名（記名の場合は押印）してください。

③ 提出は議会事務局へご持参ください。（郵送不可）

※詳しいことは議会事務局にお問い合わせください。



/// 議会だより編集委員会 編集後記 ///

斬新・刷新・革新に挑んだ編集委員会でした。ありがとうございました。

「住民皆さんに読んでいただける議会だより」を目指し、編集委員と事務局で取り組んできました。

他人事から自分事に、議会が身近に感じることをテーマに取り組みました。多くの皆さんの所取材に行きたいと思います。

バスや電車も学校や職場でもみんなで気軽に読める、町のこれからが見えるようなフリーペーパーをめざします。



議会だよりを作成するこの委員会は、現在のメンバーで最後の発行となります。町民の皆様が読みやすく、見やすくするためにどうしたら良いか、「町民の手に取って頂く議会だより」を合言葉に検討を重ねてまいりました。以前の議会だよりとは違うねと言う町民の声を聞けて良かったです。ありがとうございました。今後とも町民皆様のご支援をよろしくお願いします。

＜澤本委員長＞

■委員長：澤本 幹男 ■委員：高橋 邦男・相田恵美子・伊藤 英人・榎戸 雄一